

「救急の日」及び「救急医療週間」啓発用ポスター仕様書

一般財団法人救急振興財団

1 テーマ

救急業務及び救急医療に対する国民の正しい理解と認識を深め、かつ、救急医療関係者の意識の高揚を図ること。

2 ポスターの内容

- (1) 応急手当の重要性を国民に強く普及啓発し、一般市民の救命講習への参加意欲をかきたてられるものとする。
- (2) 「救命の連鎖」と「市民の役割」について、重要性が伝わるものとする（別添え参照）。

3 制作上の留意事項

- (1) 見る者にとって好感が持て、信頼感及び清潔感があり、かつ印象的であること。
- (2) 救急自動車及びヘリコプターを図案として使用する場合には、現行の高規格救急自動車及び消防・防災ヘリコプターを使用すること。
- (3) 使用するイラスト及び写真等については、必ずオリジナルのものを使用し、過去に使用例のないもので、かつ採用後においても当ポスター以外では使用しないこと。
- (4) 人権問題に配慮すること。

4 規格

- (1) A2判 コート紙又はマット紙 4色カラー印刷
- (2) 再生紙使用とし、その旨を表記すること。
- (3) インクは、エコマーク商品認定基準適合インクを使用し、その旨を表記すること。

5 企画案

- (1) ラフスケッチとし、原色A3判の1サイズとし、3点以内の提出とすること。
- (2) ラフスケッチにコンセプト（文書でA4片面1枚）及び見積書を添付すること。
- (3) 複数の企画案を提出する場合は、可能な限りイラストを使用する企画案と写真を使用する企画案の双方を提出すること。
- (4) 写真を使用する企画案を提出する場合は、使用する写真の撮り直しの可否についてコンセプトに記入すること。
- (5) 社名を企画案の裏面及びコンセプトに記入すること。

6 著作権等

原画の著作権は救急振興財団にあるものとし、著作権等の問題が生じた場合は受託者の責任において解決するものとする。

7 企画案提出期限

平成30年5月21日（月） 郵送可

8 その他

(1) 掲載すべき字句等

ア 「9月9日」、「救急の日」

イ 「救急車の適正な利用をお願いします。」

ウ 「救命講習の受付については最寄りの消防署にお問い合わせください。」

エ 「主催：消防庁・厚生労働省・都道府県・市町村・日本医師会・日本救急医学会・全国消防長会」

オ 「制作：一般財団法人救急振興財団」

カ 消防庁「救急車お役立ちポータルサイトQRコード」

キ 「『救急の日ポスター』へのご意見・ご感想をお寄せ下さいQRコード」

※ 記載すべき字句については、変更及び追加等あり。

(2) 掲示場所

各消防本部等

(3) 印刷枚数

財団発注分：約72,000部予定

(配付先等からの希望により増刷を行う場合あり)

(4) 納期

平成30年7月末日

(5) 納入先

消防本部、東京消防庁及びその他消防関係団体 約850箇所

(別紙3「配付計画」参照)

(6) 予定金額

4,390,000円以内(消費税含む)

(7) その他

ア 採用が決定し、ポスターが完成した際にはデータを提出すること。

イ 納入の際は、ポスターに折り目が付かない等の細心の注意を払うこと。

ウ 各消防本部等からの電子データの使用依頼について、当財団から問い合わせがあった場合には速やかに対応すること

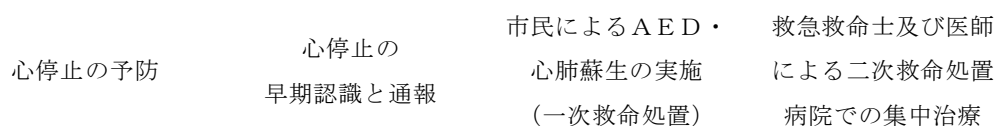
「救命の連鎖」

救命の連鎖は、[心停止の予防] [心停止の早期認識と通報] [一次救命処置（心肺蘇生とAED）] [二次救命処置と心拍再開後の集中治療] の四つの輪で成り立っており、この四つの輪が途切れることなくすばやくつながることで救命効果が高まるとされている。

下図はこの一連の行動を示した例である。



図：「救命の連鎖」の一例



〈解 説〉

1 一つ目の輪～ [心停止の予防]

子どもの突然死の主な原因には、けが、溺水、窒息^{できすい ちっそく}などがあるが、突然死の多くは日常生活の中で十分に注意することで予防可能であること。

また、成人の突然死の主な原因には生活習慣病とも呼ばれている急性心筋梗塞や脳卒中があり、生活習慣の改善でその発症のリスクを低下させることも大切な予防の一つであるが、急性心筋梗塞や脳卒中にみられる初期症状に気づき、少しでも早く救急車を呼び、心停止になる前に治療を開始することが重要である。

2 二つ目の輪～ [心停止の早期認識と通報]

突然倒れた人や、反応のない人を見たら、直ちに心停止を疑うことが大切であり、心停止かもしれない状態の人を見かけたら大声で応援を呼び、119番通報とAEDの手配を依頼し、AEDや救急隊が傷病者のもとに少しでも早く到着するように行動する。

3 三つ目の輪～ [一次救命処置（心肺蘇生とAED）]

心肺蘇生法とAEDの使用によって、止まってしまった心臓と呼吸の動きを助ける。

心臓が止まっている間、心肺蘇生によって脳や心臓に血液を送り続けることがAEDの効果を高め、心臓の動きが戻った後に後遺症を残さないためにも重要である。その場に居合わせた人が心肺蘇生を行うことが最も大切である。

4 四つ目の輪～〔二次救命処置と心拍再開後の集中治療〕

救急救命士や医師が、薬や器具などを使用して心臓の動きを取り戻すことを目指し、心臓の動きを取り戻すことができたなら、専門家による集中治療により社会復帰を目指す。

市民一人ひとりが、「救命の連鎖」を支える重要な役割を担っている。

※ イラストについては独自のものでも可